

# サビエル生誕五百年



## 巡礼の道

310

藤屋侃士  
(下松市幸ヶ丘)

ハーバード氷河を背景にしたサファイア・プリンセス号



日本人女性のコーディネーターがあり、彼女の説明によると今回ほど崩落シーンを見ることができるのは珍しい

で十五階の展望デッキに来たが、大音響の崩落シーンを直接見るのは迫力が違う。

部屋に戻り、妻を連れて再び展望デッキに。そこには抜け目なく専属カメラマンがブレイドを持って待っていた。

記念写真を撮つてもらつても買は買わないは自由。もちろん買い求めたが、氷河崩落の瞬間でなかつたのは残念だつた。環境問題を考えれば崩落はない方がいいのだ。

## ヤクタット湾の氷河

（アラスカクルーズ⑥）

アラスカクルーズのハイライトは何と言つても氷河だ。地球の氷河期の名残である氷河、アラスカには大小約五千の氷河が今も流れ、その流域面積はアラスカ全土の3%といふ。

今回のクルーズでは代表的氷河三ヵ所を見た。最初に訪れたのはヤクタット・ベイの最奥部にあるハバード氷河である。アラスカとカナダの国境は西経百四十度線に沿うように北から南に一直線に進み、北太平洋に達する

少し手前で東側に曲がる。そしてアラスカ州都ジュノーやケチカンを経てカナダ西部の北太平洋に達する。

なぜ人工的な直線の国境が一部だけカナダ洋岸に沿つて細長くアメリカ領になつたのだろうか。

今から一万年以上前は現在のペーリング海峡地域は陸地で、我々が住むユーラシア大陸と北米とは陸続き、アラスカの先住民と言われるエスキモーインディアンはユーラシアアからアメリカが買いつつあります。

取つたからなのだ。

さて、ヤクタット・ベイは人工的直線の国境をそのまま北太平洋まで伸ばした少し東側に、この湾の最奥部に、海に面した部分の幅が約十キロもあるアラスカ最大のハバード氷河がある。

セス号がウイットティア港を出たのは夜八時半、ヤクタット・ベイの入り口に着いたのは翌日の午後三時。二時間かけてゆつくりと最奥部のハバード氷河に向かう。海に面した氷河の高さは約百メートル、氷河が海に崩れ落ちる。客船には二人の

氷河が崩落する際、雷のような音がする。何万年も眠り続けている氷河の中の空気がはじけるその音はすごい。妻は部屋の窓から見るので一人

見る旅でもなければ見ることはないだろう。そうなると今の状態の地球であり続けるか疑問である。氷河見学は単なる観光ではなく、地球環境を考える旅でもなければ

見ることはないだろう。そうなると今の状態の地球であり続けるか疑問である。氷河見学は単なる観光ではなく、地球環境を考える旅でもなければ



後方の氷河が約十キロ続く